

平成 24 年度 熊本大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分  
理系 (理, 薬, 工, 医保健 (放射線, 検査)) 平成 24 年 2 月 25 日

1 以下の問いに答えよ。

- (1)  $k$  を整数とするととき,  $x$  の方程式  $x^2 - k^2 = 12$  が整数解をもつような  $k$  の値をすべて求めよ。
- (2)  $x$  の方程式  $(2a - 1)x^2 + (3a + 2)x + a + 2 = 0$  が少なくとも 1 つ整数解をもつような整数  $a$  の値とそのときの整数解をすべて求めよ。

2 実数  $c$  に対して, 行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & -c \\ c & 1 \end{pmatrix}$$

で表される 1 次変換を  $T$  とするとき, 以下の問いに答えよ。

- (1)  $T$  は原点の回りの回転移動と原点中心の拡大 (相似変換) との合成変換であることを示せ。
- (2)  $xy$  平面上の同一直線上にない 3 点  $P, Q, R$  が  $T$  によってそれぞれ  $P', Q', R'$  に移るとする。三角形  $P'Q'R'$  の面積が三角形  $PQR$  の面積の 2 倍となる  $c$  の値を求めよ。
- (3)  $c = 2$  とする。楕円

$$E: \frac{x^2}{4} + y^2 = 1$$

上の点が  $T$  によって楕円  $E'$  上の点に移るとする。 $E$  が  $E'$  の内部にあることを示し,  $E'$  の内部にあり  $E$  の外部にある部分の面積を求めよ。

- 3 2つの関数  $f(x) = \int_0^x e^t(\sin t + \cos t)dt$  と  $g(x) = \int_0^x e^t(\cos t - \sin t)dt$  について、以下の問いに答えよ。

問1  $f(x)$  と  $g(x)$  を求めよ。

問2  $f^{(n)}(x)$  と  $g^{(n)}(x)$  をそれぞれ  $f(x)$  と  $g(x)$  の第  $n$  次導関数とする。

- (1)  $n \geq 2$  のとき、 $f^{(n)}(x)$  および  $g^{(n)}(x)$  を、 $f^{(n-1)}(x)$  と  $g^{(n-1)}(x)$  を用いて表せ。
- (2)  $\{f^{(n)}(x)\}^2 + \{g^{(n)}(x)\}^2$  を求めよ。
- (3) 実数  $a$  について、 $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^{2a}}{\{f^{(n)}(a)\}^2 + \{g^{(n)}(a)\}^2}$  の和を求めよ。

- 4 関数  $f(x)$  を

$$f(x) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} |\sin t - x \cos t| dt \quad (x > 0)$$

とおく。以下の問いに答えよ。

- (1)  $a > 0$  のとき、 $a = \tan \theta$  を満たす  $\theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) に対して、 $\cos \theta$  を  $a$  を用いて表せ。
- (2)  $f(x)$  を求めよ。
- (3)  $f(x)$  の最小値とそのときの  $x$  の値を求めよ。

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad \text{整数解を } m \text{ とすると} \quad m^2 - k^2 = 12$$

$$|m|^2 - |k|^2 = 12$$

$$\text{ゆえに} \quad (|m| + |k|)(|m| - |k|) = 12$$

ここで,  $|m| + |k| = (|m| - |k|) + 2|k|$  および上式の偶奇性により,  $|m| + |k|$ ,  $|m| - |k|$  はともに偶数であるから

$$\begin{cases} |m| + |k| = 6 \\ |m| - |k| = 2 \end{cases} \quad \text{ゆえに} \quad |m| = 4, \quad |k| = 2$$

$$\text{よって} \quad k = \pm 2$$

$$(2) \quad a \text{ は整数であるから} \quad 2a - 1 \neq 0$$

したがって,  $x$  の方程式  $(2a - 1)x^2 + (3a + 2)x + a + 2 = 0$  の解は

$$x = \frac{-(3a + 2) \pm \sqrt{(3a + 2)^2 - 4(2a - 1)(a + 2)}}{2(2a - 1)}$$

$$= \frac{-(3a + 2) \pm \sqrt{a^2 + 12}}{2(2a - 1)}$$

この方程式が整数解をもつとき

$$l^2 = a^2 + 12 \quad \text{すなわち} \quad l^2 - a^2 = 12$$

を満たす整数  $l$  が存在するから, (1) の結果から,  $a = \pm 2$

$$\text{ゆえに, } a = 2 \text{ のとき} \quad x = -2, -\frac{2}{3}$$

$$a = -2 \text{ のとき} \quad x = 0, -\frac{4}{5}$$

$$\text{よって} \quad a = 2 \text{ のとき} \quad x = -2$$

$$a = -2 \text{ のとき} \quad x = 0$$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad \cos \theta = \frac{1}{\sqrt{1+c^2}}, \quad \sin \theta = \frac{c}{\sqrt{1+c^2}} \quad \text{とおくと}$$

$$\begin{aligned} A &= \begin{pmatrix} 1 & -c \\ c & 1 \end{pmatrix} = \sqrt{1+c^2} \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{1+c^2}} & -\frac{c}{\sqrt{1+c^2}} \\ \frac{c}{\sqrt{1+c^2}} & \frac{1}{\sqrt{1+c^2}} \end{pmatrix} \\ &= \sqrt{1+c^2} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$T$  は、原点を中心に  $\theta$  だけ回転する回転移動と原点を中心に  $\sqrt{1+c^2}$  だけ拡大する相似変換との合成変換である。

- (2) 3点  $P, Q, R$  の原点  $O$  に関する位置ベクトルをそれぞれ  $\vec{p}, \vec{q}, \vec{r}$  とし、また3点  $P', Q', R'$  の原点  $O$  に関する位置ベクトルをそれぞれ  $\vec{p}', \vec{q}', \vec{r}'$  とする。  $\triangle PQR$  の面積  $S$  は、  $\vec{u} = \vec{q} - \vec{p}, \vec{v} = \vec{r} - \vec{p}$  とおくと

$$S = \frac{1}{2} |\det(\vec{u} \ \vec{v})|$$

$\vec{p}' = A\vec{p}, \vec{q}' = A\vec{q}, \vec{r}' = A\vec{r}$  であるから

$$\overrightarrow{P'Q'} = \vec{q}' - \vec{p}' = A\vec{q} - A\vec{p} = A(\vec{q} - \vec{p}) = A\vec{u}$$

$$\overrightarrow{P'R'} = \vec{r}' - \vec{p}' = A\vec{r} - A\vec{p} = A(\vec{r} - \vec{p}) = A\vec{v}$$

$\triangle P'Q'R'$  の面積  $S'$  は

$$\begin{aligned} S' &= \frac{1}{2} |\det(A\vec{u} \ A\vec{v})| = \frac{1}{2} |\det(A(\vec{u} \ \vec{v}))| \\ &= \frac{1}{2} |\det A \det(\vec{u} \ \vec{v})| = \frac{1}{2} |\det A| |\det(\vec{u} \ \vec{v})| \end{aligned}$$

したがって  $S' = |\det A| S$

条件により、  $|\det A| = 2$  であるから  $|1+c^2| = 2$  よって  $c = \pm 1$

補足

正方形行列  $A, B$  について、  $\det(AB) = \det A \det B$  が成り立つ。

- (3)  $c = 2$  のとき、(1) の結果から、  $E$  と  $E'$  の相似比は  $1 : \sqrt{5}$  である。  
楕円の中心から楕円上の点の距離は長軸上で最大となり、短軸上で最小となるので、原点から、  $E, E'$  までの距離をそれぞれ  $d, d'$  とすると

$$1 \leq d \leq 2, \quad \sqrt{5} \leq d' \leq 2\sqrt{5}$$

したがって、  $E$  は  $E'$  の内部にある。また、求める面積は

$$\{(\sqrt{5})^2 - 1\} \pi \cdot 2 \cdot 1 = 8\pi$$

3 問 1  $f(x) = \int_0^x e^t(\sin t + \cos t)dt = \left[ e^t \sin t \right]_0^x = e^x \sin x$

$$g(x) = \int_0^x e^t(\cos t - \sin t)dt = \left[ e^t \cos t \right]_0^x = e^x \cos x - 1$$

問 2 (1)  $f(x) = \int_0^x e^t(\sin t + \cos t)dt$  と  $g(x) = \int_0^x e^t(\cos t - \sin t)dt$  をそれぞれ  $x$  で微分すると

$$f'(x) = e^x \sin x + e^x \cos x$$

$$g'(x) = e^x \cos x - e^x \sin x$$

問 1 の結果から  $e^x \sin x = f(x)$  ,  $e^x \cos x = g(x) + 1$  を代入すると

$$f'(x) = f(x) + \{g(x) + 1\}$$

$$g'(x) = \{g(x) + 1\} - f(x)$$

これらを  $(n - 1)$  回微分すると ( $n \geq 2$ )

$$f^{(n)}(x) = f^{(n-1)}(x) + g^{(n-1)}(x)$$

$$g^{(n)}(x) = -f^{(n-1)}(x) + g^{(n-1)}(x)$$

(2) (1) の結果から

$$\begin{aligned} & \{f^{(n)}(x)\}^2 + \{g^{(n)}(x)\}^2 \\ &= \{f^{(n-1)}(x) + g^{(n-1)}(x)\}^2 + \{-f^{(n-1)}(x) + g^{(n-1)}(x)\}^2 \\ &= 2[\{f^{(n-1)}(x)\}^2 + \{g^{(n-1)}(x)\}^2] \end{aligned}$$

したがって

$$\{f^{(n)}(x)\}^2 + \{g^{(n)}(x)\}^2 = 2^{n-1}[\{f'(x)\}^2 + \{g'(x)\}^2]$$

さらに

$$\begin{aligned} \{f'(x)\}^2 + \{g'(x)\}^2 &= (e^x \sin x + e^x \cos x)^2 + (e^x \cos x - e^x \sin x)^2 \\ &= 2e^{2x} \end{aligned}$$

よって, 上の 2 式より  $\{f^{(n)}(x)\}^2 + \{g^{(n)}(x)\}^2 = 2^{n-1} \cdot 2e^{2x} = 2^n e^{2x}$

(3) (2) の結果から

$$\sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^{2a}}{\{f^{(n)}(a)\}^2 + \{g^{(n)}(a)\}^2} = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{e^{2a}}{2^n e^{2a}} = \sum_{n=1}^{\infty} \left(\frac{1}{2}\right)^n = \frac{\frac{1}{2}}{1 - \frac{1}{2}} = 1$$

## 補足

$n \geq 2$  のとき, 問 2(1) の結果から

$$\begin{pmatrix} f^{(n)}(x) \\ g^{(n)}(x) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} f^{(n-1)}(x) \\ g^{(n-1)}(x) \end{pmatrix}$$

ここで,  $\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} = \sqrt{2} \begin{pmatrix} \cos \frac{\pi}{4} & \sin \frac{\pi}{4} \\ -\sin \frac{\pi}{4} & \cos \frac{\pi}{4} \end{pmatrix}$  であることから

$$\begin{pmatrix} f^{(n)}(x) \\ g^{(n)}(x) \end{pmatrix} = (\sqrt{2})^{n-1} \begin{pmatrix} \cos \frac{\pi}{4}(n-1) & \sin \frac{\pi}{4}(n-1) \\ -\sin \frac{\pi}{4}(n-1) & \cos \frac{\pi}{4}(n-1) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} f'(x) \\ g'(x) \end{pmatrix}$$

また,  $\begin{pmatrix} f'(x) \\ g'(x) \end{pmatrix} = \sqrt{2}e^x \begin{pmatrix} \sin(x + \frac{\pi}{4}) \\ \cos(x + \frac{\pi}{4}) \end{pmatrix}$  であるから

$$\begin{pmatrix} f^{(n)}(x) \\ g^{(n)}(x) \end{pmatrix} = (\sqrt{2})^n e^x \begin{pmatrix} \sin(x + \frac{n}{4}\pi) \\ \cos(x + \frac{n}{4}\pi) \end{pmatrix}$$

上式は,  $n = 1$  のときも成立する.

4 (1)  $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$  に  $\tan \theta = a$  を代入すると

$$1 + a^2 = \frac{1}{\cos^2 \theta} \quad \text{ゆえに} \quad \cos^2 \theta = \frac{1}{1 + a^2}$$

$$0 < \theta < \frac{\pi}{2} \text{ により, } \cos \theta > 0 \text{ であるから } \cos \theta = \frac{1}{\sqrt{1 + a^2}}$$

(2)  $x > 0$  に対して, 次式を満たす  $\theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) をとる.

$$\sin \theta = \frac{x}{\sqrt{1 + x^2}}$$

このとき,  $\cos \theta = \frac{1}{\sqrt{1 + x^2}}$  であるから

$$\sin t - x \cos t = \sqrt{1 + x^2} \sin(t - \theta)$$

したがって

$$\begin{aligned} f(x) &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} |\sin t - x \cos t| dt \\ &= \sqrt{1 + x^2} \int_0^{\frac{\pi}{2}} |\sin(t - \theta)| dt \end{aligned}$$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  であるから

$$\begin{aligned} f(x) &= \sqrt{1 + x^2} \left\{ \int_0^{\theta} \{-\sin(t - \theta)\} dt + \int_{\theta}^{\frac{\pi}{2}} \sin(t - \theta) dt \right\} \\ &= \sqrt{1 + x^2} \left\{ \left[ \cos(t - \theta) \right]_0^{\theta} + \left[ -\cos(t - \theta) \right]_{\theta}^{\frac{\pi}{2}} \right\} \\ &= \sqrt{1 + x^2} (2 - \sin \theta - \cos \theta) \\ &= 2\sqrt{1 + x^2} - x - 1 \end{aligned}$$

(3) (2) の結果を微分すると

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{2x}{\sqrt{1+x^2}} - 1 = \frac{2x - \sqrt{1+x^2}}{\sqrt{1+x^2}} \\ &= \frac{3x^2 - 1}{\sqrt{1+x^2}(2x + \sqrt{1+x^2})} \end{aligned}$$

したがって、 $f(x)$  の増減表は、次のようになる。

|         |   |     |                      |     |
|---------|---|-----|----------------------|-----|
| $x$     | 0 | ... | $\frac{1}{\sqrt{3}}$ | ... |
| $f'(x)$ |   | -   | 0                    | +   |
| $f(x)$  |   | \   | 極小<br>$\sqrt{3}-1$   | /   |

よって、 $x = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のとき最小値  $\sqrt{3}-1$  をとる。

別解

(2) により

$$\sqrt{1+x^2} = \frac{1}{\cos \theta}, \quad x = \tan \theta$$

ここで、 $g(\theta) = f(x)$  とおくと

$$g(\theta) = \frac{2}{\cos \theta} - \tan \theta - 1 \quad \left(0 < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$$

$$g'(\theta) = \frac{2 \sin \theta - 1}{\cos^2 \theta}$$

したがって、 $g(\theta)$  の増減表は、次のようになる。

|              |   |     |                    |     |                 |
|--------------|---|-----|--------------------|-----|-----------------|
| $\theta$     | 0 | ... | $\frac{\pi}{6}$    | ... | $\frac{\pi}{2}$ |
| $g'(\theta)$ |   | -   | 0                  | +   |                 |
| $g(\theta)$  |   | \   | 極小<br>$\sqrt{3}-1$ | /   |                 |

また、 $x = \tan \theta$  により、 $\theta = \frac{\pi}{6}$  のとき  $x = \frac{1}{\sqrt{3}}$

よって、 $x = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のとき最小値  $\sqrt{3}-1$  をとる。